

れ

れいくぜん【名詞】霊供膳 佛前に供える膳部 れえくぜんに同じ

れえ (礼) (でえ)【名詞】れい (礼) の訛 家々を訪問して賀詞其他の挨拶をする習慣 通例は正月の年始礼に限って用いる。年賀の習俗にはいろいろ有るが大列すると 1) 供宴を伴う年始礼 2) 門札 (かどれい) 門口だけで年始の挨拶をなすもの 3) 総礼 一堂に会しての年始となる。[会話] レエ しょながつ (正月) の レエに いてこい (行ってこい) 言うて、しゅうぎ (祝儀) もてく (持って行く) 事を 年始ん (に) 行く事を レエン (に) 行かな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うて 子供らん (に)。そすと (そうすると) 昔やれえがやし (礼返し) 言うて、重箱い (へ) 入れて、とふ (豆腐) もてたり (持って行ったり) こんにやくもてたり しよおった (して居ました)。昔や (は) 親のレエな (が) 五十銭で 伯父叔母やどきや (などは) 二十銭か十五銭か するやんない (するでしょう) するとさいご (その時) 銭で かやしゃ (返せば) 半分かやす (返す) 家も有るし十銭かやすとこ (処を) 五銭にする家も有るもんで (ので)、そんで (それで) とふ 一丁もてたり こんにやく五丁位して 重箱い (へ) 入れて れえがやしや (だ) 言うて 行きおったわい (行って居ました) 叔父叔母の家い (へ)。レエに行く人を れえど (礼人) れえどな (が) 来るよってん (から) に 言うて、親の家は 皆、子供らな (が) レエに来るやんない (でしょう) それや (それとか) なこと (仲人) しとると (していると) なことおや (仲人親) のとこい (所へ) れえどな (が) 来るもんで (ので) れえどな (が) 来るよってん (から) 年始 すんのん (するの) に 言うて ちよいと (少しの) ごっつおなあ (御馳走を)、今しみたよおな (今のような) 派手なごっつあ しやせんけど (しないが)、鮓に、刺し身に、三杯づけ位のごっつおやわい (です) 鮓すんのな (するの) 関の山やわい。刺し身や、さんばいづけや言うて うなぎ (うづぼ) の煮付け 数の子 数の子な (が) よけ (沢山) 有って。一番のかぶとん (一番大きい鉢に) 十二月言うて くざけて (水に浸して) あく抜いて、今しや (今は) 数のか (こは) 宝もん (物) やてや

(です)。そやもんで (それだから) 数の子か、煮付けか、鮓か、刺し身か、その位のもんやわい (物です) そして (そうして) れえど受ける 言うてその位ごっつおして、れえど 受けんね (受けるのです)。こおな (子供が) なんにん (幾人) 有っても こららも 皆ぞろぞろ連れて こらら (子供達) 皆、ついてくんね (ついてくるのです)。叔父や叔母のとこい (所へ) 行くのも 皆こららも 連れていて (行って)、そすと (そうすると) 銭も一銭か二銭くれや (くれれば) うれして (嬉しくて)。二銭のおっきい (大きい) 銅貨貰うと うれして おっきいな (大きいのは) 壁打ちのてぎや 言うて、それを楽しんで 巾着別ん (に) して ごっつお (御馳走) 食うて、よさりん (夜に) なるともろた (貰った) ぜん (銭) を、だあだあとあけて 勘定して すんのな (するの) どいらい (大変) うれしかりおったなあ (嬉しかったのです)。

れえ【名詞】1) 例 れいの訛、しきたり 2) いつもの事

れえうけ【名詞】1) 礼受 年始の挨拶を受けること 2) 葬式の会葬者に礼を言う事 [会話] 1) れえ 受けんならん (受けてなければならぬ) 言うて、親許い (に) 年始ん (に) 行くやんない (でしょう) 年始を受ける 言うのを レエウケル 言うの (のです)。れえど (年始に来る人) 受けんならん 言うて。そして 年始ん (に) 行くのを れえん (に) 行くね (のだ) 言よおった (言っていました)。れえどな (が) 来る 支度すんのを (するのを) れえど 受けんならんよって (から) おらぎや (俺の家は) 忙しわれ (忙しいです) 言うてなあ。

れえうける 年始の挨拶を受ける [会話] 親許な あ (が) 子供らな (が) 皆 年始ん (に) 寄って来るやんない (でしょう)、それを レエ ウケル 言うの。親の有るうちや (間は) 親のれえに言うて 皆 行くやんかい (のです)。それを れえど (年始の人) 受けんならんよって (受けなければならぬ) から まあ 忙して 言うてなあ

れえがえし (れいがへし)【名詞】送り物に対し行う返礼の金品 (南、張、名) [会話] レエガヤシ 今しや (今は) しやせんなあ (しません)、昔や (は) 一円して来ると 五十銭 返す 家も有るし、

七十銭 返す家もあるし。はんぼうつ (半分づつ) もろて (貰って) はんぶ (半分) 返しおったの (たのです)。十銭 れえん (に) 来ると なつとも (なんとも) しょおねえもんで (しかたないので)、とふ (豆腐) 一丁つ持って れえん (に) いたりな あ (行ったり)、手持持ったり、ちょいとやもんで (少しなので) ぜん (銭) で返されやせんもんで (ないので)。

れえがし (礼菓子) 【名詞】 お膳について居る菓子。多くは鶴亀、野菜、鯛の形をした押し菓子 [会話] 本膳のつぼとひら つばい (へ) は 人参、ごんぼ (牛蒡) ひらい (へ) は レエガシを 掘えんね (入れます)。

れえがやし 【名詞】 年始の挨拶を受けた御礼の返し物。[会話] しょんがつのれえ (年始) ん (に) いて来い (行つて来い) 言うて、祝儀持って 年始ん (に) 行くことを れえん (に) 行く言うて、そすと (すると) レエガヤシ 言うて とふ (豆腐) 一丁持って レエガヤシん (に) いたり (行ったり)。

れえぎ (れいぎ) 【名詞】 礼儀 社会のきまりにあった交際の動作や仕方

れえきん (れいきん) 【名詞】 礼金 謝礼として出す金銭 [会話] レエキン言うて なんかの (何かの) れえすんのなあ (するのです)。あの人ん (に) せんぎり (十分) 厄介ん (に) なったけど (が) まあ レエキンな (が) 無いわれ (有りません) 言うて。

れえく (れいく) (霊供)。れえくぜん 【名詞】 仏前に供える膳部 (志 (布施田、鵜方)) [会話] レエクノゼン。レエクゼン言うて、ちっちゃあい (小さい) のおえ (のへ) 今しや (今は) つね (平素) でも レエクゼン できるとるけど (して居るが)、昔や (は) 年忌の速夜 (前夜) ん (に) になると レエクゼン 出して つにゃ (普段は。つねは。) ぶく い (に) して。

れえごもり (れいごもり) (礼籠) 【名詞】 三日間参籠の後に御礼の参籠 [会話] 病気がしたりすると三日籠言うて 三日籠つて (参籠して)、こんだ (今度は) レエゴモリ 言うて 後で一日こもの (参籠するのです)。

れえこ (れいこ)。れえこん 【名詞】 蓮根 (志 (片田)、鳥 (坂手)) [会話] 鼻な (が) そら向いとると (て居ると) レエコンバナや (だ) 言うて、レエコンバナ (蓮根鼻) で そら向いとんない (向いて居

る) 言うて、レエコン はすかい (斜) に 切ると はなぼら (鼻の孔) ん (に) よお (よく) 似とんねてや (似て居るのです)。そして あや (あれは) レエコンバナやなあ (だ) 言うて、蓮根を レエコン 言うの (のです)。

れえこんばな 【名詞】 鼻孔が上を向いている鼻 [会話] はなぼらな (鼻の孔が) 空 (上) むいとると (むいてると) レエコンバナや (です)

れえじょお (れいじょう れいじょう) (礼状) 【名詞】 御礼の書状。

れえする 【自サ変】 御礼をする 御返しをする れい するの訛 [会話] あの家で 厄介ん (に) なった よつてん (から)、いて (行つて) レエシテ こおな (来なければ) 言うて、なんかを (何かを) 持って、れえん (に) 行たり なんも (なにも) 持たん と (持たずに) まあ おおきんえ (有難う) 厄介ん (に) なつてなあ言うて れえん (に) 行たり、れえん (に) 行かな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うて。昔や (は) 節句ん (に) になると、レエ ん (に) イク 言うてなあ 親許へ 重箱い (へ) 米入れてなあ 桃の節句に、五月の節句に 九月の節句に 親許へ 行きおつたけど (行つて居ましたが) 今日日は (キョオビは・此の頃は) そいな (そんな) こた (事は) けえ (少し) もや (もです)。親な (が) 亡いよおん (に) になると、おやだままつり 小餅の姉や (だ) 言うて、小餅 言うて この位やん な (でしょう) その姉やもんで (なので) それより ちょいと (少し) おっきいの (大きいのを) ひと かさねえつ (一重づつ) 持って 親許へ、れえん (に) 行きおつた (行つて居ました)。二日のひい (日) んなあ (に) 小餅の姉 とつといたか (取つておいたか) 言うてな 餅 搗くよん (ように) になると、おやだままつりも とつといたか 言うて必ず とりおつたの (取つて居たのです)。

れえぜん (れいぜん) (霊前) 【名詞】 死んだ人の霊の前

れえぞお (れいぞう れいぞう) (冷蔵) 【名詞】 冷して貯える事。

れえど (れいど) 【名詞】 正月年始に来る人 れえ 参照 [会話] 礼 (年始) に行く人を レエド、レエド な (が) 来る よつてん (から) 言うて。親の家や (は) 子供らな (が) れえ (年始) に来る やんない (でしょう)、なこと (仲人) しとると (して居ると) なことおや (仲人親) の とこい (所へ) レエ

ドな (が) 来るもんで (来るので) レエドな (が) 来るよってん 年始すんのん (するのに) 言うて ちよいとした (少しの) ごっつお (御馳走) なあ (です)。

れえとおもん (れいとおうもん) 【名詞】 冷凍物 鮮度を保ち保存のため凍らせた食品 冷凍して有る物、冷凍を解いたもの [会話] レエトオモン 冷凍してあるもん (物) を 言うね (言うのです)。

れえのやまやま 充分に御礼をしたり、言ったりする。やまやまは多い事を表す。愚痴のやまやま (志 (布施田))

れえひまち 【名詞】 れえごもりに同じ ひまち参照

れえばおこ 【名詞】 礼奉公 奉公人は年期の終わった後御礼の意味で主家にとどまって、ただで働くこと [会話] レエボオコ言うて 大工の弟子でも、佐官の弟子でも 三年なら三年言うて行くやんかい (行きます)、そすと (すると) それ過ぎてから 又一年つ行きおったのな (行って居たのです)。そいな (そんな) のおお (のを) レエボオコ言うのなあ (言うのです)。

れえまあり (れいまあり、れいまはり) 【名詞】 年始めに各家を訪れること [会話] レエマアリ 言うのは れえん (に) まあってくのな (て行くのを) レエマアリン (に) 行かな (なければ) 言うて。正月やどけでも (などでも) なことおや (仲人) な (の) とこ (所) い (へ) れえん (に) いたり (行ったり)、伯父さんや、叔母さんの、正月やなんや (に) (とかに) まあってくの (廻って行くのを) レエマアリな。

れえまいり (れいまいり) 【名詞】 祈願を掛けた神社佛閣に祈願のかかった御礼に参拝すること。[会話] レエマイリ言うな (のは)、病氣しとるとか (してるとか) なんか 言うて 神さんに 治してくれ (下さい) 言うて、願いん (に) 行くやんかい (行きます・行くで有りませんか)。病氣な (が) 平癒すると レエマイリン (に) 行かな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うて、願い事した時んなあ (に)。よお (よく) ても、わりいても (わるくて) も願い事な (が) して有ると レエマイリに 行かな いかんわれ (いけない) 言うてなあ、病氣の時ん (に) その人な (が) 死んだとしてもなあ レエマイリン (に) 行てこな (行って来なければ) 言うて。

れえれえし 【形容詞】 仰々しい。大仰しい。れいれい

しい

れえんいく 礼に行く。年始の挨拶に行く。[会話] 正月になると レエニク言うて、叔父さんのとこ (所) や (とか)、伯母さん とこ もてくの (持って行くのを)、はよ (早く) れえん (に) 行て来いよお言うて 子供らん (に) 皆 持たしたり おったわな (てやりました)。親許へは レエニク 言うて 年始に行くねけどな (のだが)、年始に行くのを レエニ イク言うね (言うのです)。レエニク言うて れえにいく 言うのを “に” 言わんと “ん” 言うて 言う人もおるし、れえんいて来い 言よおったの (言って居たのです)。

れきる 出来る。(志)

れきれき (歴歴) 【名詞】 偉い人

レットル 【名詞】 顔の表情、特に女性。L e t t e l (オランダ語) (松)

れば 【名詞】 出刃包丁 (志 (鶴方)、鳥 (長岡))

…**れる** 可能。出来る。(志、鳥、四、鈴市、安、津、多、伊、尾、南)

…**れん** 出来ない。不可能。(桑市、桑郡、員、三、鈴市、一、久、飯、多、張、度、北、尾、南、熊)

れん (連) 【名詞】 首飾り。真珠の首飾。連なって居る物から。

…**れんかった** なかった 出来なかった。(志) [用例] 行こおもとたけど (行こうと思って居たが) 行かレンカッタ。

れんくみ 【名詞】 真珠の首飾りを作る事。

れんこ 【名詞】 蓮根 (桑郡、桑市、三、鈴市、伊、南、熊)

れんこ。れんこだい 【名詞】 きだい タイ科の海魚 全長 35 cmに達す。黄赤色で、特に吻は黄色味が強い。体に真鯛のような青色の小斑点は無く、背面に不明瞭な黄色の円紋が有る。両頬に白歯を欠くこともマダイとの著しい相違点。ちだい タイ科の海魚 全長 40 cm位になる。体型、体色ともに真鯛に似るがやや小さく、尾鰭の縁が黒くないので区別できる。体色は赤く、青い小点が散在。鰓蓋の後縁部の膜が暗赤色で、血を流した様に見えるところからこの名が有る。(志、鳥、南、熊)

れんじゃく (連尺) 荷を二つに分けて担つぐ事 (志 (布施田、甲賀)) [会話] レンジャクん (に) 掛けて言うて、前と後ろと 振り分けん (に) すんのを (するのを) レンジャクん (に) して言うて、信玄袋と 風呂敷包みを かずいて (担

いで。ひがなひいじゅう (一日中) 歩いとりおつた (歩いて居ました)。十七で やといがしら (雇い頭) して なんにん (幾人) 言うて やとて (雇って) 行くんやんかい (行くのです)。みな (皆) レンジャクん (に) して 歩いて。

れんちゅう (連中) 【名詞】 仲間 一塊の人々

…**れんで** 出来なくて

…**れんど** されるぞ

れんぼお 【名詞】 電報 (志、鳥 (坂手、加茂)、三、鈴郡、一、松、上、阿、張、度、伊、南、熊)

れんわ 【名詞】 電話 (鳥 (坂手)、松、上、阿、度、尾、南、熊)